

施設の短期中期のサービス向上への取り組み

1. 社会福祉法人として、利用者の満足を追求する
昨年度から取り組んだ泉苑ライフスタイルプロジェクトの更なる推進に努める。見直された利用者の生活の質と職員の業務についてさらに向上できるように取り組む。全部署がさらに緻密な連携をし、高齢虚弱化しつつある利用者の、人生最後の時が、ご本人らしい過ごし方である様、泉苑の組織全体で考え、生活環境を整える。
2. 社会福祉法人として、家族支援・地域支援の拠点となる
 - (1) 地域包括ケアシステムの中で、特養を中心とした大規模多機能型施設として地域貢献の拠点施設としての役割を果たす。
 - (2) 29年度に始まる新しい総合事業を前に、地域高齢者のニーズを掌握し、住民と一緒に考えていく。27年度に開始できた地域向け食事サービスなどのさらなる浸透のために住民ボランティアとの協働が欠かせないので、地域への関わりを深め理解を広める。
 - (3) 認知症高齢者及び家族への支援として認知症対応型通所介護をもう一度作り直す。在宅療養支援の考え方から、医療との連携をさらに深めていく。
3. 社会福祉法人として核となる職員の定着・安心の実現
 - (1) 法人の人材育成のシステムとしてある、チャレンジプランやOJTを利用して細やかな職員の支援を行う。
 - (2) 健康管理やストレスケアの手法を導入し、適切な支援を行うとともに職員一人一人が持っている、能力・意欲が反映できるように配慮する。
4. 社会福祉法人としての経営体制の確立
 - (1) 利用者への信頼される支援がそのまま経営の安定につながる、特養稼働率が常時95%超になるよう、待機者へのアプローチや、包括支援センター、居宅介護支援事業所への情報交換を密にする。
 - (2) 大胆な組織再編成を行い、利用者への重厚な介護支援が行える職員配置を検討し、施設全体の持つ総合力を生かした事業展開に取り組む。

施設の取組

1. 昨年度からの取り組みである、ライフスタイルプロジェクトをさらに推進する。利用者にとっての快食・快便・快眠と個々を中心に適切な支援業務の内容を検討する。
2. 認知症高齢者及びその家族への支援をホーム・センター・包括・居宅・食事などすべての部署が連携して、具体的な方法を確立する。
3. 家族支援の考え方から、一人で複数の介護支援（ダブルケアなど）で苦勞されている地域の方々へ白鳥と協働し、解決に向けた取り組みを始める。
4. 来たる大災害を想定した、BCPを活用し、しらとり・地域と連携した防災計画を実践する。
5. リスクマネジメントにおいて、事故・ひやりはっとの検証・分析、掘り下げで考えることで「気づき」を深め予防に繋げる。